



# 新年の挨拶

代表取締役社長  
安永 暁俊

新年あけましておめでとうございます。皆さまには、ご家族とともに笑顔で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。社員の皆さんには、平生より職場において、業務に邁進いただき、厚く御礼申し上げます。

## 年度見直し計画

始めに、年度見直し計画について述べたいと思います。2012年の超円高のピーク後、円安基調が3年程続いています。当初、円安を受けて国内投資が活発になるとの経済予測がありましたが、国内投資増との実感には程遠い現状です。

を稼働するまでに至りました。

インドネシアでは、コンロッドラインの稼働率向上や不良率低減を愚直に取り組んでいます。原因究明と対策実施では、長年のものづくりの経験から、鋭い視点で切り込んでいます。韓国では、クランクシャフトの生産が安定し品質も高く維持しています。コンロッドの立上げも経験し、ようやくものづくりが浸透してきたと感じます。

メキシコ拠点は、いよいよ工場の建設にとりかかります。既に、2018年度から海外自動車メーカーへコンロッド製品を製造・販売することが決まっており、それに向けて準備を進めています。

海外拠点の立上げに伴う投資負担は大きいものですが、将来への大きな布石として取り組んでいます。また、海外拠点において、国内で従来取引の少なかったお客様とも商談をすすめるなどの効果も出ています。

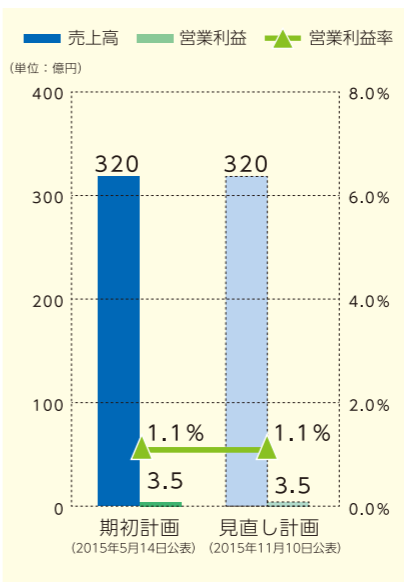
2013年1月号で、海外進出が国内の仕事に還流していくと述べましたが、その兆しを確実に感じていきます。

エンジン部品の海外生産は4拠点となり、これからは、海外で経験を積むことが当たり前を感じる時代になります。会社として、海外での貴重な経験を積んだ方に、より活躍していただく場を用意すべく努めていきます。

当社事業においても、国内投資に伴う受注は以前と比べると、まだまだ少ない水準です。2014年の消費増税に伴う消費の減退も大きく、日本経済はまだまだ景況感に乏しいと感じます。

今年度上期がおり、売上と営業利益は期初計画通りの見通しです。昨年度よりも増収増益の基調ではあるものの、厳しい状況が続いています。

今年度上期を前年同期と比較すると、エンジン部品事業では売上が微増、原価低減活動等で増益となりました。機械装置事業では、自動車業界向けを中心に売上が増加したものの、太陽電池業界向けが低調であり利益は大幅に悪化しました。環境機器事業では、増収増益となりました。



2014年1月号で述べたように、世界の人口は100億人(2050年頃)へ向けて、爆発的に増えています。先日のCOP21(パリ協定)で採択されたように、省エネやCO2削減は世界的な取り組み課題です。安永の製品が、それら課題に対して役立つことができれば、可能性は無限に広がります!

## 機械装置事業の取り組み

工作機械は、改良開発してきた2スピンドル加工機やリークテスターが、自動車メーカーに数多く採用されてきました。スピード感を持って、お客様のニーズに答えてきた成果が現れています。繁忙が続く自動車業界向けの受注に対して、生産体制を工夫して日々対応しています。

ワイヤソーは、当社が業界に先駆けて提案してきた、固定砥粒技術(ダイヤモンドワイヤー)による加工が普及してきました。この機に、業界No.1の線速を誇る新型機を販売開始しています。業界のパイオニアとして、機械の信頼性を高めながら、販売拡大を狙っていきます。

検査装置は、太陽電池業界での採用に加え、自動車業界での採用も徐々に増えています。自動車の電子化の流れに乗って、当社の得意な外観検査の領域を増やしていきます。

## 環境機器事業の取り組み

国内での開発認証の遅れなどでやや苦戦していますが、海外での販売増などの追い風が吹いています。

最近、安永本体とエアポンプ社・クリーンテック社との交流もあり、それぞれの文化が混ざりあって、明るい雰囲気になっていきます。本役員経験者の方に、エアポンプ社への積極的な指導や提案をお願いしています。部品事業や機械装置事業での考え方やノウハウを注入し、技術面や品質面での向上に役立っています。今後、インドネシア拠点での生産拡大を迎えており、競争力強化も同時に取り組んでいきます。

## 安永グループの近況について

### エンジン部品事業の取り組み

今年度、国内工場での大型新規ラインの立上げがありました。苦戦した点もありましたが、関係者の皆さんの努力と連携で、無事に生産を始めています。このチームワークの良さを、今後につなげてください。

部品事業部として、対外的に挑戦することを応援しています。若手技術者には、社外で経験をつむことを奨励しています。自動車メーカーでゲストエンジニアとして経験を積むことで、一回りも二回りもたくましくなっています。将来、社内外での貢献を大いに期待します。

事業部を挙げての小集団活動(MD活動)についても、昨年度から社外のQC大会へ参加するなど、広がりを見せてきました。

マザー工場としての機能も活発になってきました。海外拠点から実務研修で来る社員も年々増えています。

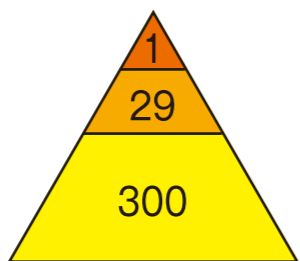
一方、今年度の海外出張の延べ日数は、過去最大であった2013年度を上回る勢いです。今までは、技術や品証の方が出張する機会が多かったのですが、最近は製造部の方も海外に積極的に出ています。

特に、タイへは製造部の指導監督者を中心に、延べ10名が3か月間の指導に行きました。タイの社員に、ものづくりの基本を教えると同時に、異文化での環境の違いに触れるなど、貴重な体験となりました。そのおかげもあり、無事に5ライン

## 安全とコンプライアンス

非常に残念なことです。今年度は既に労働災害を6件出してしまいました。10月に非常事態宣言を出しましたが、11月には更に一カ月間宣言を延長する事態となりました。

皆さんご存知だと思いますが、災害防止に関する有名な法則があります。ヒヤリ・ハットの段階でその原因を調べて対策することで、事故や災害を防ぎましょう。



1件の重大な事故・災害  
29件の軽微な事故・災害  
300件のヒヤリ・ハット  
(ハインリッヒの法則)

今年度のコンプライアンス意識調査では、より多くのご意見やご指摘をいただきました。ありがとうございます。皆さんからの声に真摯に耳を傾け、職場環境の改善に努めていきます。

## ファミリーイベント

大変うれしいことに、永年勤続表彰の方が、年々増えています。これだけ多くの皆さんが会社とともに歩まれたことを、改めて感謝申し上げます。これからも、末永く勤めていただければと思います。

## 新年を迎えて

さあ、2016年が始まります。気分一新、全員一丸となって頑張りましょう!